

白塚地域の場合 ～地域の福祉を考える懇談会～

開催のきっかけ

津市社会福祉協議会が実施した地域福祉懇談会で地域での取り組みを考え、地区別福祉プラン(地域でのこれからの取りくみ)を作成した。そのプランを推進していくため。

開催頻度

随時

メンバー

地区社会福祉協議会の会長、自治会連合会の会長、各種福祉団体の長、小学校、PTA、津市社会福祉協議会 など

つながった活動

話し合いから出た5つのテーマについて取り組み中

- ①認知症の方にやさしいまちづくり
- ②子どもたちの見守り
- ③子どもたちと一緒に取り組む地域行事
- ④地域をきれいにして白塚地域をもっと好きになる
- ⑤地域のことを考えていくための後継者を育成



↑認知症キッズ
サポーター養成講座



↑サロンでの認知症
サポーター養成講座



↑子どもの見守り

白塚地域は祭りなど伝統行事を大切にしている、地域愛が強く、つながりもあります。

伝統を大切にしながら、自分達ができる範囲で活動を進めています。

自治会連合会
会長 ↓



♡モットー♡

『地域のいいところや
なくなってさみしい活動
等いろいろと話をする』
『みんなの意見から
取り組みを考える』
ことです。

地区社会福祉協議会
会長 →



わが町を考える話し合いの場 (=協議体)のすすめ

協議体って何？

住民のみなさんと関係団体・機関が共に、地域におけるつながりや支え合いの輪を広げていくために、みんなでワイワイガヤガヤと話し合い、地域を知り、地域での活動につなげていく場のことです。



なぜ、協議体が必要な？

- 平成の30年間で私たちの生活環境は大きく変わりました。高齢者のいる世帯のうち、三世帯世帯は約4割から1割まで減少しています。世帯主が65歳以上の世帯では一人暮らし世帯が増えており、2040年には4割に達すると言われています。
- このような状況の中、日常的に会話の少ない世帯や日頃のちょっとした手助けを頼る人がいない世帯も相当数あり、人とのつながり・支え合いの乏しさがうかがえます。
- 少子高齢化が進み、担い手不足が深刻化する中、高齢になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるように、新たなつながりや支え合いをつくることが求められています。

★生活支援コーディネーター連絡先★

担当地域	配置場所(住所)	電話番号
津地域	津市社会福祉協議会 地域福祉課 津市大門7-15 津センターパレス3階	059-213-7111 059-246-1165
久居地域	津市社会福祉協議会 久居支部 津市久居東鷹跡町20-2 津市久居総合福祉会館内	059-256-1202
河芸地域	津市社会福祉協議会 河芸支部 津市河芸町浜田868 津市河芸ほほえみセンター内	059-245-8888
芸濃地域	津市社会福祉協議会 芸濃支部 津市芸濃町棕本6141-1 津市芸濃保健福祉センター内	059-265-4531
美里地域	津市社会福祉協議会 美里支部 津市美里町三郷46-3 津市美里社会福祉センター内	059-279-3366
安濃地域	津市社会福祉協議会 安濃支部 津市安濃町東観音寺418 津市サンヒルズ安濃内	059-268-5804
香良洲地域	津市社会福祉協議会 香良洲支部 津市香良洲町2167 津市サンデルタ香良洲内	059-292-7711
一志地域	津市社会福祉協議会 一志支部 津市一志町井関1792 津市とことめの里一志内	059-295-0066
白山地域	津市社会福祉協議会 白山支部 津市白山町川口892 津市白山保健福祉センター内	059-262-7029
美杉地域	津市社会福祉協議会 美杉支部 津市美杉町奥津929 津市美杉高齢者生活福祉センター内	059-274-0023

★私たち地域支え合い推進隊★

生活支援コーディネーター



生活支援コーディネーター(地域支え合い推進員)は、住民のみなさんや関係団体・機関と共に、地域でのつながりづくりや支え合いを推進し、高齢になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる「地域づくり」に取り組みます。

社会福祉法人 津市社会福祉協議会

話し合いの場ができるまでの5つのステップ

ステップ1 こんな思いが芽生えたら...



一人暮らしだけど
これからもこの地域
で安心して暮らして
いきたいな。

子ども達や若い世代と
も交流して活気ある
地域が続くといいわ。



ステップ4 「話し合いの場があったらいいな」と思ったら、具体的に考えてみよう



ここでのポイント

- どんな話がしたい？メンバーは？会場は？等具体的に考えてみる
- 今ある集まりが活用できるなら活用する
- いろいろな立場の人に入ってもらう
- メンバーは必要に応じて変わってもOK

ステップ5 わが町を考える話し合いの場 (=協議体) の開催



ここでのポイント

- ざっくばらんにみんなが意見を言えるような雰囲気づくりを心掛ける
- 話し合いの中で地域のことを知る機会にする(地域のいいところ、気になるところを再確認)
- 今ある地域のつながりを大切にする
- 自分たちで取り組めることを考える
- 要望会や抗議にならない雰囲気づくりにも大切

楽しい雰囲気できたらいいですね

地域の皆さんの
アツい思いを
きっかけに始め
てみよう。



ステップ2 地域のことを一緒に考える仲間を見つけよう



ここでのポイント

- 同じ地域に住んでいる人に声をかけてみる
- 人数が少なくても大丈夫

ステップ3 仲間で集まって地域のいいところや気になるところについて話し合ってみよう



ここでのポイント

- ワイワイガヤガヤとざっくばらんにみんなの思いを出し合う
- 津市社会福祉協議会にもぜひ声をかけてください

地域で話し合い、地域の実情に合わせて作っていきけるといいですね。

安濃地域の場合 ～みまもり研究会あとう～

開催のきっかけ

初代座長と津市社会福祉協議会の職員の会話の中から「安濃地域も高齢化が進み、このままではあかん。何とかしなければ」と思い、一度話し合いをする必要があると思ったから。



まずは地域のことを話し合うために自分が信頼できる仲間にかかりました。

←初代座長

開催頻度

平成26年「みまもり研究会あとう」を立ち上げ、2か月に1回程度開催

メンバー

地区社会福祉協議会の会長、自治会連合会の会長、各種福祉団体の長、サロンの世話役、地域包括支援センター、津市、駐在所、津市社会福祉協議会 など

買い物支援の話し合いの時も、地域の特徴や住民の思いを大切に検討をすすめています。

↓2代目座長

つながった活動

- ①きざしと気づきのパンフレット
- ②安心・相談先カードの配布
- ③民生委員児童委員協議会と自治会の連携
- ④移動販売の誘致

もしもの時のために！ 心の健康と連絡先 (安心カード)	
氏名	
住所	
電話番号	
もしもの連絡先 (近所・親戚等)	

↑安心・相談先カード

♡モットー♡
『ざっくばらんに言いたいことは言う』
会議の中で「いいな♡」と思える意見を自分たちの地域の取り組みに取り入れることです。

←3代目座長



↑移動販売とサロン



↑みまもり「きざしと気づき」のパンフレット



芸濃地域の場合 芸濃地域のふくしを考える会～

開催のきっかけ

津市社会福祉協議会主催の地域福祉懇話会をする中で「自分たちがもっと考えていかなあかん」と感じたから。

開催頻度

必要に応じて開催

メンバー

地区社会福祉協議会の会長、自治会連合会の会長、各種福祉団体の長、地域包括支援センター、津市、子育て支援センター、津市社会福祉協議会 など

つながった活動

地域の現状を知る手段として70歳以上の住民及び支援が必要と思われる方にアンケートを実施し、今は3つのテーマを協議中

- ①見守り活動の推進
- ②集いの場の促進
- ③生活支援ボランティアのしくみづくり

当初は全体会で活動を進めていたが、地域の現状「生の声」を把握し、目的の方向性をより具体的なものとしていくため、専門部会を立ち上げる。専門部会で検討協議した内容を全体会に提案するしくみが構築された。



←全体会の様子

♡モットー♡
自分達の地域の事は自分達で考えていくことです。



↓住民アンケート



← 専門部会代表